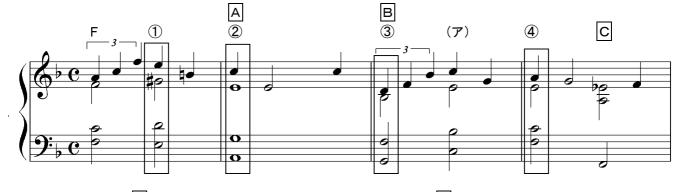
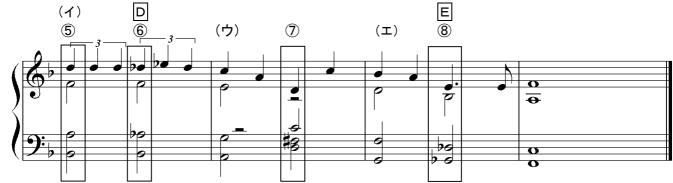
## [Advanced I]

筆記試験 〈理論〉 例題集 ①

(90分)

I. 次の楽譜を見て、各問に答えなさい。





1. (1)~(8)にあてはまるコード・ネームを書きなさい。

1

3

4

**(5)** 

7

8

- 2. A~Eのコードの度数と機能を書きなさい。
  - (注)機能の表示は以下の略号で答えなさい。

Tonic  $\rightarrow$  T

Dominant  $\rightarrow$  D

Subdominant  $\rightarrow$  S

Subdominant Minor  $\rightarrow$  Sm Secondary Dominant  $\rightarrow$  Sec.D

Sub Secondary Dominant  $\rightarrow$  Sub Sec.D

	度数	機能
Α		
В		
С		
D		
Е		

3. (ア) ~ (エ) のコードに対する適切なアベイラブル・ノート・スケール名を書きなさい (開始音名も記入すること)。(ア) \_\_\_\_\_\_ (イ) \_\_\_\_\_

(I) \_\_\_\_

●コード判別、コードの度数と機能、アベイラブル・ノート・スケールに関する問題です。Advanced I では、 ノン・ダイアトニック・コード (代理コードやセカンダリー・ドミナント)を含めた各種のコードの機能 を、曲のキーとコードの構成音から分析することが求められます。また、ダイアトニック・コードのアベ イラブル・ノート・スケールについては、後述の問題Vでも問われるので、『セオリー・オブ・ポピュラ ー&ジャズ 3』第10章(35ページ~)を参考に、アベイラブル・ノート・スケールの名称をよく知って おくことが必要です。

(正解) 1. ① E7 ② Am7 ③ Gm7 ④ Fmaj7 ⑤  $B^{\,\flat}$ maj7 ⑥  $B^{\,\flat}$ m7 ⑦ D7 ⑧  $G^{\,\flat}$ 7 2 .

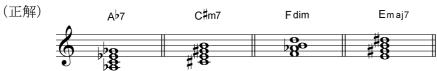
	度数	機能	
Α	IIIm7 T		
В	<b>Ⅱ</b> m7	S	
С	V7/IV	Sec.D	
D	IVm7	Sm	
Е	<sup>♭</sup> II 7	D	

(ウ)

3. (P)C ミクソリディアン・スケール  $(A)B^{\flat}$  リディアン・スケール (P)A フリジアン・スケール (P)G ドリアン・スケール



●コードの構成音を問う問題です。Basic I と同様、、コード・ネームからの音符を組み立て方を理解して おきましょう。



Ⅲ. 下の表は、ダイアトニック・コードの機能とその代理和音について書かれたものです。該当するコード・ネームを記して空欄をうめなさい。

	トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
(例)	Cmaj7	Em7 Am7	Fmaj7	Dm7	<b>G</b> 7
			Amaj7		
	Dm7				
			E <sup>♭</sup> maj7		

●ダイアトニック・コードの機能のまとめです。メジャーおよびマイナー・キーについて、それぞれのダイアトニック・コードの機能を整理しておきましょう。 (正解)

トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
Emaj7	G#m7 C#m7	Amaj7	F#m7	В7
Dm7	Fmaj7 (B <sup>♭</sup> maj7)	Gm7	Em7 <sup>( } 5)</sup> C7 (B <sup>}</sup> maj7)	A7
B <sup>♭</sup> maj7	Dm7 Gm7	E <sup>♭</sup> maj7	Cm7	F7

<ul><li>Ⅳ. 例にならって、下記のコード・パターンにふさわしいコード・ネームを記入し、その説明として適切なものを 内から選んで番号で答えなさい。</li></ul>
(例)Key : G major
~ I m7
(1) Key: B b major
~ IVm7
(2) Key: D minor
~ II m7(♭5) V7 ♭VImaj7 説明:
(3) Key: A major
~ I m7
(説明) 1. 主要和音によるサブドミナントードミナント・ケーデンス 2. トゥー・ファイブによるサブドミナントードミナント・ケーデンス 3. 代理コードを用いたトゥー・ファイブによるサブドミナントードミナント・ケーデンス

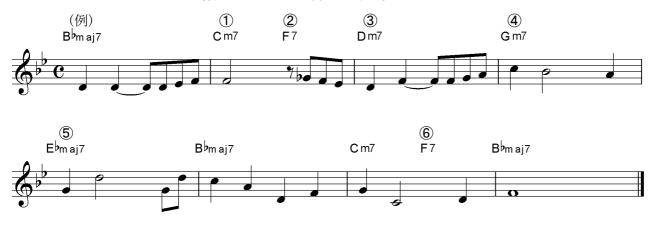
●コード進行 (ケーデンス) に関する理解を問う問題です。まず、それぞれのキーにおける各度数のコード・ネームを導き出すこと、さらにそれらの機能を分析することが必要です。各コードの機能がわかれば、その繋がりからケーデンスの種類を割り出すことができます。

5. 主要和音によるサブドミナント・マイナー・ケーデンス6. 代理コードを用いたサブドミナント・マイナー・ケーデンス

7. ディセプティブ・ケーデンス (偽終止)

V. 例にならって、①~⑥のコードとメロディーに対応した、適切なアベイラブル・ノート・スケールとテンション・ノートの音名と度数を書きなさい。また、アボイド・ノートがある場合はアボイド・ノートの音名と度数も書きなさい。

(アボイド・ノートがない場合はNo Avoidと書きなさい。)



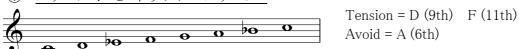
●楽譜から、ダイアトニック・コードのアベイラブル・ノート・スケールを導き出して五線に記載し、さらにテンションとアボイドを答える問題です。譜面におけるそれぞれのコードに対するアベイラブル・ノート・スケールの名称と構成音、さらにそれに含まれるテンションおよびアボイド・ノートの度数と音名を正確に理解していることが必要です。ドミナント7thコードについては複数のスケールが考えられますが、メロディーに含まれる音(テンション・ノートとなり得る音)によって適切なものを選びます。(なお、②のようにメロディーから複数のスケールの候補があり得る場合は、どちらを選んでも正解です。)これらについては、『セオリー・オブ・ポピュラー&ジャズ 3』第10章(35~55ページ)を熟読して、よく覚えておきましょう。

## (正解)

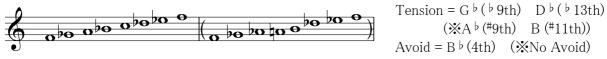
(例)  $\underline{\mathsf{Z}}$ ケール: $\mathbf{B}^{\,\flat}$ イオニアン・スケール



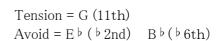
① スケール: C ドリアン・スケール



② スケール: F ハーモニックマイナーP5↓スケール(※またはF オルタード・スケール)

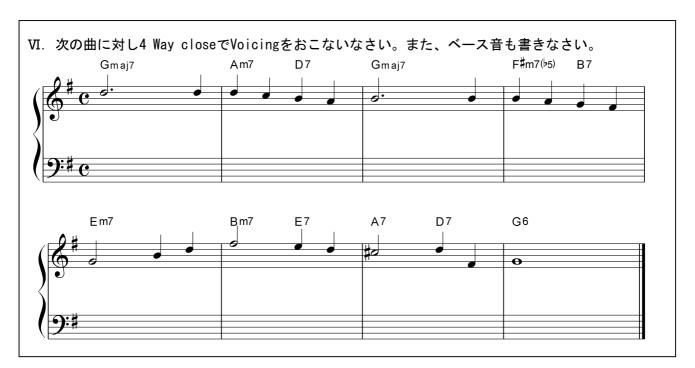




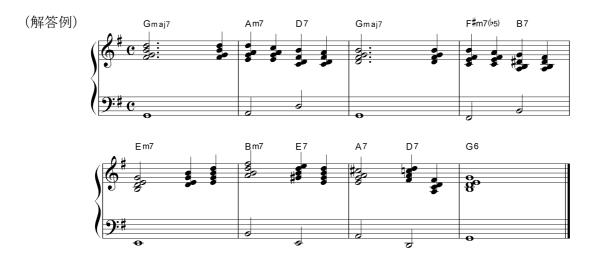


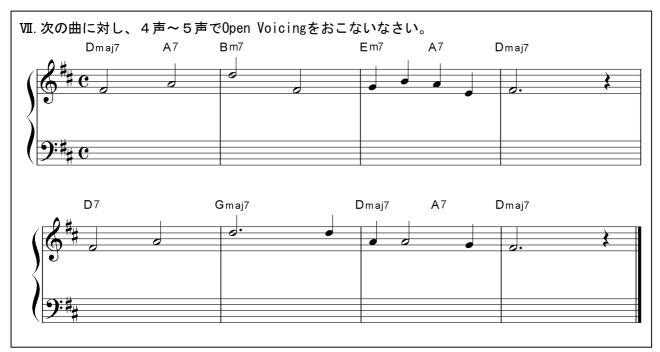






●メロディーに対するクローズ・ボイシングです。クローズ・ボイシングの基本は、メロディーの音をトップとして、その下にコード・トーンを順に配置していきます(メロディーがコード・トーンでない場合は、メロディーのすぐ下のコード・トーンを省いて同様に残りの音を配置します)。この手法について詳しくは『ピアノ・パフォーマンス 3』STEP 3 (22ページ~) に掲載されているので、日頃から譜面上でトレーニングしておくと良いでしょう。





- ●メロディーに対するオープン・ボイシングです。オープン・ボイシングにはいくつかの方法がありますが、
  - ・最低音 (ルート) の上に5thを置き、メロディーとの間に3rd、7thを埋める (シンプル・オープン・ハーモニー: 『ピアノ・パフォーマンス 3』 STEP 5 46ページ~を参照)
  - ・メロディーが3rdか7thであれば、ルートとの間に残りの3rdか7thと5thを入れる
  - ・クローズ・ボイシングをした上で、2番目もしくは3番目のコード・トーンをオクターブ下げる (Drop2、Drop3)

という手法を、音域やラインの流れを考慮して組み合わせるのがセオリーです。なお、5th音は省略可能ですが3rd、7thは原則として省略しないことや、ロー・インターバル・リミット(低音域での音程関係)にも注意しましょう。

